

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400515		
法人名	有限会社ワオン		
事業所名	グループホームわおん1号店		
所在地	岐阜県羽島市中上町708-1		
自己評価作成日	令和6年11月12日	評価結果市町村受理日	令和7年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400515-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達の施設は「笑顔」と「ありがとう」が溢れるアットホームな施設です。利用者一人ひとりの希望を叶える個別ケアを実践している。外出が好きな方には、行きたい所をお聞きし、事前に計画を立てお出掛けしている。作品作りが好きな方には、スタッフと協力し合い季節事の壁紙作りをし、毎月季節事の行事も開催して季節感を味わっている。ワークアンドバランスも整っており、職員同士の信頼関係も良好、スタッフは皆明るく、楽しく職についている。今年からセラピーバード、セキセイインコの「ピッチィー」も一号店の一員となり、利用者、スタッフ共にお世話をして癒しを頂いている。今年もう一つ、わおん街道に井戸もでき、井戸水でコーヒータイム、災害時にも備えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

子供たちを含めた地域住民との交流を大切にし、地域の行事にも積極的に参加している。コミュニティセンターの文化祭に向け作品を制作し展示してもらい、皆で見学に行っている。利用者も職員も何でも相談できる環境にあり、それぞれの思いや希望を気軽に伝えられ、過ごしやすく働きやすい事業所である。利用者のやりたいことを足腰の衰えを理由に、ただ諦めてしまうのではなく、安全にできる方法やその人の出来ることを皆で考え支援している。逆に利用者が職員の悩み事を聞いてくれることもあり、お互いの信頼関係が築けている。毎朝、全職員で唱和する「すべては皆の幸せのために」を心に刻み互いが、助け合い、感謝の気持ちを伝え、笑顔の溢れる事業所を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働いている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と共に「スタッフ行動規範10か条」を朝礼時に唱和し、全職員に周知出来るようにしている。職員、利用者様、わおんに関わる全ての人の為に行動し、理念に基づいて支援の実践に努めている。	理念と行動規範10か条を記載したカードを全職員が携帯している。朝礼時に、その日に選んだ項目を唱和し最後に「すべては皆の幸せのために」と合唱し、各自が日々のケアを振り返りながら、感謝と笑顔が溢れるよう理念を意識して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の近くには円空堂があり、朝市、夏祭り、ふれあいサロン等がある為、地域の方々との交流の場がある。また、散歩にも良く出掛け、近隣の方と挨拶、会話をしている。	散歩時に挨拶したり野菜をもらったりしている。円空堂の朝市での買い物、夏まつりに子供会と共同でかき氷や塩きゅうりの漬物を出店、ふれあいサロンの喫茶など交流する機会が多い。中学生のギター演奏やボランティアのしめ縄づくりでも交流している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回定期的に運営推進会議を開催しており、施設での催し物、事業の実業と取り組み内容を報告し、意見交換している。	ユニット毎の事業報告を行い意見交換を活発に行っている。防災対策の提案を活かしている。会の名称を身近に感じてもらえるよう「地域福祉を考える会」とし地域の出席者も多く、イベント情報、独居高齢者の悩みや見守り方法などの課題も話し合っているが、利用者家族の参加がない。	利用者・家族の参加は必須である。参加してもらえるように工夫して、事業所を利用している立場からまた違う視点の意見も聞き、更に有意義な会議となることを期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて、高齢福祉課、地域包括支援センターの方と交流している。月一回介護相談員の方が来て下さり、利用者様の相談にのって下さっている。	担当者とは、顔なじみで話しやすい関係を築き、支払いや生活保護などの相談に出向き助言をもらっている。毎月、介護相談員の訪問があり、利用者も楽しみに話をしている。市の菊花展に配布される苗を利用者と育て展示している。研修は、内容に応じて参加している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を定め、職員に周知している。定期的に研修、勉強会を行っており、知識を深めると共に普段のケアの振り返りの場としている。	身体拘束や虐待防止に関する委員会の内容は、会議で報告している。内部研修を行い拘束の弊害を理解して取り組んでいる。認知症ケアについて問題があった時は、サブリーダーが受け止め対応し、会議でも意見を聞き職員のやる気を損ねないように話し合っている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所研修の中で高齢者虐待についての知識を得ている。毎月のヘルパー会議にて課題にあげ虐待防止に努めている。	研修や勉強会で具体的な虐待行為や虐待に繋がらないためにどうしたら良いかなど話し合っている。忙しい時は互いに助け合い、言いたいことがあればリーダーに聞いてもらうなどストレスを溜めないようにして虐待防止に努めている。	

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を活用されていた方がみえ、実践する機会を得た。わおんグループに居宅支援事業所もある為、居宅のケアマネとも連携出来、学ぶ機会を得る事が出来ている。その際家族とも話し合いを深める事が出来ている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際は、一つ一つの項目において丁寧な説明を心掛けている。利用者様、家族様の不安、疑問について傾聴し、理解、納得を得てから契約等を行っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月「わおんだより」として新聞と個別のお手紙に写真添付し、日常生活の様子をお伝えしている。面会時やLINE等でもコミュニケーションを多く取り、ご意見、ご要望をお聞きする機会を設け、それらを運営に反映している。	毎月「わおん新聞」と一緒に担当職員とケアマネの手紙に写真を添えて家族に送っている。面会時やラインで日常の様子を伝え要望など聞いている。家族から返信もあり、安心できると喜ばれ職員の励みにもなっている。家族の要望には、職員間で話し合っ対応している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ヘルパー会議や各委員会にて職員の意見交換や提案を行っている。それをリーダー会議にて管理者、代表者に伝え改善に役立っている。	気づいたことなど要望や提案を言いやすい雰囲気職場である。会議や委員会での意見を管理者(法人の代表者)も参加するリーダー会議で伝えると改善されていく仕組みになっている。エアコンの設置、修繕など対応してもらえると職員のやる気にも繋がりがりどんどん意見が出るようになった。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	リーダー会議において個々の努力、勤務状況が代表に伝達されている。休み希望はシフト作成までに申告、有休も1ヶ月前に申請、急な休みには職員同士グループラインにて共有し助け合う事が出来ている。	それぞれの生活環境や家庭事情に合わせて勤務調整をし、子育て中の職員への配慮もしている。休みの希望や連休は、公平に取れるよう努めている。急な休みもグループラインで連絡を取って助け合い働きやすい職場である。この職場に出会えて良かったとの声もある。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	わおんでは、特定技能実習生の受け入れを行い、働きながらトレーニング出来る環境を整えている。また、グループホーム協会、事業所内の研修も行っている。	内部研修の年間計画を立て全員が参加している。資格取得やスキルアップの外部研修には希望で参加ができ、勤務扱いで費用の負担もあり、会社から応援している。外国籍の職員には、日本語の勉強も行き、個別に日々のケアを具体的に指導している。	

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会の交流を通じて知り合った施設に行き、実際の支援や職員の意見、看取り、地域交流について等の意見交換を行うことで、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様は人生の先輩であり、時には職員の悩みを相談し、励ませて頂く事もある関係性である。暮らしを共にする者同士、良い信頼関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時の面談から、また日常の雑談からご本人の暮らし方の希望、意向を把握している。困難な場合は、ご家族からの聞き取りや本人の表情、しぐさ等から推測している。	日常の会話の中から本人のやっていた事ややりたい事を聞き、危ないからできないのではなく安全にできる方法を話し合い、意向に添えるよう支援している。家族から「こんなことができるんですね」と驚きながらも喜ばれている。本人の思いを大切にしながら取り組んでいる。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や面会時にご本人、ご家族等の意見を反映している。毎月のヘルパー会議時に意見を聞いたり、医師、看護師の意見も反映している。	ヘルパー会議の意見を取り入れて担当職員とケアマネが毎月モニタリングを行い、3カ月に1回担当者会議を開き介護計画の見直しを行っている。家族が来れないときは電話で意見を聞いている。医師や看護師の意見も参考にしている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護支援経過にて個別の記録をしている。申し送り時にケアについて話し合い、職員間で情報共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の介護記録、介護支援経過記録に利用者の状態や発した言葉、計画に沿って実践したケア、気づきなどを記録している。申し送りや業務日誌も併用して情報の共有に努め、モニタリングや介護計画の見直しに活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	LINEを活用し、日々の様子を写真等で送っている。中々面会に来られないご家族もそれを見て安心されてみえる。面会時間も決まっておらず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	緊急時に家族で対応できない時の受診の支援をしている。車椅子利用者の受診の送迎も行っている。利用者の希望にそって買い物・図書館・寿司屋などに行っている。以前、利用していた法人のデイサービスへ遊びに行くこともある。	

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	アセスメントの中でその方に必要な社会資源の把握に努めている。地域の方との交流も多くあり、繋がりを持って生活が出来るよう努めている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様と家族様の希望で、かかりつけ医を選択することが出来、定期的に医師や訪問看護師の往診を受けている。受診の際には、ご家族、職員間の連携、共有を行っている。	本人・家族の希望で従前のかかりつけ医や協力医の訪問診療を受けている。検査や専門医の受診は、家族が付き添い情報は共有している。車椅子利用者の送迎を行うこともある。訪問看護師の健康管理もあり、緊急時は医師に連絡し指示のもと対応している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病棟との情報共有、医療サービスセンターへの相談を積極的に行っている。必要であればカンファレンス、共同指導も開催し早期に退院できるよう努めている。また、衣類等届ける際にも健康状態の把握に努めている。	入院時は、フェイスシートや薬剤情報などサマリーを情報提供している。担当者面会時や電話で連絡を取り合って利用者の状態を把握している。退院時は、医療サービスセンターから情報を得て今後の対応についてかかりつけ医や看護師とも相談しながら安心して退院できるよう支援している。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重症化した場合や看取りについてお話させて頂いている。体調の変化があればご家族に連絡し今後の対応や意向の確認を都度行っている。看取りの勉強会を事業所内で開催し、いざと言う時職員が安心してケア出来るようにしている。	入居時に事業所の方針を説明している。状態の変化に応じて家族に説明して今後の対応や終末期のあり方についての再確認をしている。看取りを希望されると医師・看護師・職員・家族が協力しながら安らかな最期を送れるよう取り組んでいる。職員が不安にならないよう看取りについての勉強会も行っている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についての話し合いを行い、実際の事例検討に基づき、応急手当や初期対応についてシュミレーションも行っている。また、緊急時情報シートを作成したり、バイタル器具が入ったバッグを外出時に持って行くようにしている。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、火災や地震を想定した避難訓練を行っている。協力して下さる、ライスセンターとの共同訓練も行い、地域との協力体制を築いている。	火災・地震・夜間想定を含む避難訓練を年2回実施している。近隣のライスセンターと共同訓練を行う時もある。備蓄品の整備もしているが、災害に備えて防災食づくりを利用者と一緒にやった。地震に対応できる深さの井戸を作り、避難経路にスロープを作るなどの災害対策をしている。	

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から自尊心に配慮した言葉掛けやケアの実践に努めている。利用者様の思い、不安等を傾聴し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けや対応をしている。	常に利用者は年上の人という尊敬の思いを持って接している。排泄や入浴介助時は、プライバシーに配慮して行っている。入居時に印刷物や掲示に写真を使用することの同意をもらい、名前はイニシャルにしている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から会話を多く持ち、その方の考え方や嗜好を把握するようにしたり、意思決定しやすい環境作りに努めている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、おやつ時間は決まっていますが、その日は居室にて過ごしたい方は意思を尊重し希望に添った支援を心掛けている。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はホールにて皆さん一緒に食べている。職員は利用者様の好みを把握しており、献立や配膳を工夫している。一人一人の力を活かし、野菜カット、食器拭き等をお願いしている。	収穫した野菜や冷蔵庫にある物で利用者の希望を聞きメニューを決めて調理している。利用者は、買い物も一緒に行き手作りの食事を楽しみにしている。野菜の下ごしらえや食器拭き、おやつ作りなども一緒に行っている。ラーメンや焼き肉など外食も楽しんでいる。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は職員が作っている。週三回は調理師免許のある方が昼食作りをしている。各利用者様の摂取状態は毎日の個人介護記録で把握しており、その方に合わせた食事形態、器の工夫もしている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行っている。週一回訪問歯科がみえ、契約された方の口腔ケア、診察も行っている。歯ブラシの日光消毒を毎日、ミルトン消毒週一回行っている。	歯磨きは、まずは自分で行い、磨き残しの確認や義歯の洗浄をするなど利用者の口腔状態や本人の力に応じて支援している。訪問歯科診療時に歯科医師や歯科衛生士から適切なブラシや消毒方法の助言やケアの指導を受けている。	

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はなるべくトイレにて排泄して頂けるよう、その方にあった時間、誘導、回数にしている。毎月介護技術委員会で介助方法、オムツ、パット等の変更を話し合い自立に向けた支援を行っている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週三回の入浴を基本に、利用者の希望を取り入れながら入浴方法や時間を調整している。入浴は1対1でありコミュニケーションの時間として大切にしており、ゆったりとリラックスして頂けるようにしている。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの健康状態や状況に合わせて昼寝をしたり、早めに就寝して頂いている。家で遅くまでテレビを観られていた方は居室にもあり、テレビを観ながらご自分のタイミングで就寝している。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師との連携を図り、薬についての知識を深めている。普段の服薬内容だけではなく、変更があった際はスタッフ間で周知している。誤薬の無いよう朝、昼、晩色分けし、内服時チェックを3回行い、飲み込みもしっかり確認している。	利用者の薬の内容や変更時の注意点などそれぞれの薬剤師と連携して服薬支援をしている。朝、昼、夕が分かるよう薬袋を色分けし一日分をダブルチェックで用意している。名前など再確認をして服薬し、飲み残しの確認もしている。服薬後は薬専用のゴミ箱をチェックして誤薬や飲み残しが無いように努めている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、ご利用者には個々にあった役割を決めている。一人ひとりの嗜好、強みを活かしたケアプランに基づいてケアを実施している。職員が労いの言葉を必ずかける事で役割の喜びを感じて頂けるよう努めている。	食事・洗濯・掃除・セキセイインコの世話や畑仕事など利用者の出来ることを活かして役割としている。ボール遊びやパズル・ゲートボール・スナックわおん・花火やスイカ割りなど趣味や好きなことをレクリエーションや行事に取り入れて昔を懐かしんだり、運動したりして楽しみのある暮らしの支援をしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日はご利用者の健康状態に合わせ、ご利用者自ら他のご利用者の車椅子を押し散歩をしている。普段行けない場所では、事前にご希望を聞き、事前計画、準備をしっかりとし外出支援をしている。	天気の良い日は、日常的に散歩や買い物に出かけている。地域行事以外にもお参り・花見やピクニック・昆虫博物館など行きたい場所があれば先送りしないように計画を立て出かけている。家族の協力を得ることもある。	

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方、その人の力に応じてお金を所持して頂いたり、買い物の際は選ぶ楽しさを感じて頂き、支払いを代行させて頂いている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方には、使い方を説明させて頂き、話しやすいよう居室に案内させて頂いている。電話をかけたいと要望があればその方に応じてサポートしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年2回の大掃除、食事後ホール清掃と共用スペースの掃除に力を入れている。整理整頓にも心掛ける事で心地良い空間作りを心掛けている。玄関やホールの壁には季節感ある壁紙作りをご利用者と一緒に作成し飾っている。	玄関やリビングに利用者と一緒に作った季節の作品や行事の写真を飾っている。しめ縄を作り正月を迎える準備をしている。ベランダに洗濯物が干してある。懐メロを流し将棋をしたり、絵をかいたりする自由に過ごせる場所を作っている。環境整備に力を入れ整理整頓にも心がけ快適に過ごせるよう努めている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは広く、銘々自由に過ごしている。自然に気の合ったご利用者同士がお話されている。車椅子の方もみえる為、極力無駄な物は置かず、移動しやすい居場所作りの工夫をしている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、テレビを観たい方は居室に持ち込んだり、冷蔵庫が居室にある方もみえる。馴染みの物や家族からのプレゼント、写真を飾ったりして本人が心地よく過ごせるよう工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を分かり易く書き、示す事で行きたい所に行ける工夫をしている。椅子も一人で行き易い物にしたり無駄な物を置かないことで安全かつ自立した生活が送れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170400515		
法人名	有限会社ワオン		
事業所名	グループホームわおん2号店		
所在地	岐阜県羽島市中上町中705-3		
自己評価作成日	令和6年11月9日	評価結果市町村受理日	令和7年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action.kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170400515-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地		
訪問調査日	令和6年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私たち施設では、笑顔溢れるアットホームな施設です。コミュニケーション能力が高く、利用者様、職員の信頼関係も良好です。利用者様が生き生きして頂ける様に毎月季節に応じて、外出や喫茶店など馴染みのある所に行っています。季節の作品を毎月作成し、季節感を味わって頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~42で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念と社員行動規範が、書かれているクレドをほぼ全員のスタッフが持っている。朝の申し送り時に行動規範を読む事で規範と理念を大切にしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の夏祭り、円空朝市、菊の祭典などの行事に参加している。水害訓練では、山田製作所でお世話になり、畑に井戸を作って頂き災害時の水くみ場になっている。来年には、備蓄倉庫も作る予定。地域の方から、野菜や花が届き、社会とのつながりを大切にしている。		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。地域福祉を考える会として開催して高齢福祉課の方、民生委員の方、地域の区長様などにも参加して頂いている。		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の現状や空き家情報を報告、相談して連携している。月1回、介護相談員の訪問があり、サービスの質の向上を一緒に考え協力してくれる体制が築けている。		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護技術委員会が、年に3回以上身体拘束をしないケアの話し合いを行っている。年に2回研修をヘルパー会議で開催してスタッフに周知できるようにしている。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ヘルパー会議で、研修を行い勉強会をして意識を高めている。利用者様に対しての言葉遣いにも気を付けている。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、利用されている方は見えない。ケアマネの研修で学ぶ機会を持ち、必要時に話し合える様に支援している。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、十分説明させて頂き、ご本人様やご家族様の不安、疑問点を尋ねて納得をいただいているから、契約している。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人様からの意見や要望は、早期にスタッフからリーダー、管理者に報告して対応している。担当者会議は、3ヶ月毎に行っているが、電話やメール、LINEなどのツールを使って家族様の要望を伺っている。リーダー、管理者、ケアマネに伝え情報を共有し、運営に反映させている。		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会で、会議を開催し、ヘルパー会議で報告し共有している。職員の意見や提案をリーダー会議で、検討し反映している。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	スタッフが意見を言いやすい環境にして、個々の個性を大切にしている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の委員会で、研修のテーマを決めて開催している。新人スタッフの働きやすい環境にしている。スタッフ、職員のペースで働いてもらえる様に勤務の要望に応えながら勤務表を作成している。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修の再開やボランティアの受け入れなど、地域の交流を再開している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人は、人生の先輩である。尊敬の念を持ち一緒に過ごせる環境に感謝しながら関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にアセスメントを行い希望をお聴きしている。入所後は日々の会話や、3ヶ月毎のモニタリングでやりたい事や行きたい場所をお聴きしている。困難な場合は、ご家族に以前の様子をお聞きして、表情やしぐさから把握している。		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、スタッフ、各種関係者、Drからケアの在り方をお聞きしている。モニタリング用紙を活用して、ヘルパー会議、担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は個別介護記録に記入している。日々の申し送りやヘルパー会議で共有して実践している。介護計画の見直しに活かしている。		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	天気が良い時は、ピクニックに行こうと当日に計画を立てたり、利用者様が行きたい場所、食べたいものを取り入れている。また、体調や身体状況に応じて、各種関係者からサービスを取り入れて対応している。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族、友人、ご近所の方、馴染みの喫茶店、2号店にいる猫など、利用者が豊かになる地域資源を把握しており、安全に豊かに過ごせるように支援している。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医、歯医者に診て頂ける様に支援している。また、体調が不安定で個人病院の協力を得た方が良い場合は、山田医院に協力してもらい、羽島市民病院と連携している。		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は介護サマリーを活用して、日常の様子など伝えている。面会時は、担当ナースから状況をお聴きしている。退院時は、ご家族と連携してカンファレンスに参加している。病院側の主催する研修に参加して顔の見える関係づくりをしている。		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でもできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から看取りができる事お伝えしている。早い段階でプロトコルの延命を希望されるかをお聴きしている。また、看取りの際は、ご家族に看取りの流れを伝えて、納得のいく看取りができるように支援している。事業所でも看取りの勉強会を開いている。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護に急変時の対応の仕方を伝授して頂き、ヘルパー会議で共有している。緊急時対応マニュアルが置いてあり、すぐに確認できるようにしてある。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で、防災訓練を実施している。水害、地震、火災時の対応を画面での対応確認や想定訓練、通報訓練などを実施している。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の人格を尊重し、言葉かけやケアの実践に努めている。他者に聞かれない話、夜間や浴室内で個別にお聞きしている。不安や精神的に安心して生活して頂ける様に心がけている。		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人と信頼関係を早期に築く事で、希望を伝えてもらったり、自己決定できるように働きかけている。また、難しい方は選択制にしたり、表情から読み取っている。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の挨拶から本人が何を望んでいるのかを感じ取り、その日の過ごし方を皆で話し合い、個別ケアの充実を心がけている。要望、希望がかなえられるように支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜を収穫して枝豆ちぎり、オクラ収穫などの本人の活躍できる場を提供している。料理の下ごしらえや準備、片付けも一緒にして力を発揮できるようにしている。		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、介護記録に記載して、食事量、水分量を把握している。嚥下状態、咀嚼の力を見ながら食事の形態を工夫している。栄養バランスの取れた食事が摂取できるように努めている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の能力に応じて仕上げ磨きをしたり、口腔内の状況や誤嚥にならない様に介助している。各務歯科に助言を頂いている。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレの声掛けをしたり、尿意のある方は誘導し介助している。本人の使える身体機能をいかして介助している。夜間時は、本人の希望で、ポータブルトイレを置いて安心して休める環境にしている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、基本週3回と決まっているが、希望があれば、入浴している。季節感を味わえる様に柚子などの時期には実施している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	フロアにソファがあり、リラックスできる環境を作っている。夜間眠れない方には、温かい飲み物を提供して、話しやすい環境を作っている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時や受診時は本人の状態、希望の主治医に伝えている。薬剤師との連携や薬が変わった時は、状況変化を観察し報告している。		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴を活かした役割、希望、やりたい事をお聴きして一緒に計画している。個別ケアを大切にしている。毎日が、楽しくなるように支援している。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ピクニックに行きたい、川が見たい、花を見に行きたいなどの本人様の希望は、プランに取り入れご家族様や地域の方の協力を得ながら支援している。		

グループホームわおん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様が、管理したいと希望のある方には、所持してもらっている。施設で管理している方でも、買い物、喫茶店のお支払いは、本人様にお渡しして使えるようにしている。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されてみえる方は、本人様が電話している。遠距離の方には、LINEなどのビデオ通話を使い連絡したり、手紙や絵手紙を書いて、家族様や友人の方と交流できるようにしている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある作品を一緒に作成したり、天井飾りを作成して季節感があり明るい施設を心がけている。庭や畑には、季節の花や野菜を植えて楽しみを増やしている。猫も住み着いて施設のペットになっている。		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、大きなソファがあり、利用者様同士会話したり、猫を撫でて癒しの空間になっている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋には、家族様との思い出の写真や作品が、飾られている。本人の居心地を最優先にしている。体調や状態に合わせて、本人と一緒に考えたりもしている。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のやりたい、したいの思いを大切にしている。手すりの設置やお手伝いのしやすいように椅子の配置、食器は手の届きやすい場所に置いている。本人の作品を作られている時に材料の場所などにも工夫をしている。		